

【香南市】
校務 DX 計画

1. 校務 DX における現状について

香南市（以下「本市」という。）では、令和 2 年度から校務用端末に統合型校務支援システムを導入し、グループウェアを用いて校務の管理や情報伝達・共有のデジタル化を推進してきた。また、同年度に「GIGA スクール構想」を踏まえ、1 人 1 台の端末の整備に合わせて、すべての児童生徒と教員にアカウントも付与し、クラウド環境を活用した教育の情報化への推進も図ってきた。

2. 「校務 DX チェックリスト自己点検結果（以下「自己点検結果」という。）」における結果、課題について

令和 5 年 11 月に実施された「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果（学校向け）」（文部科学省）の達成状況の速報値では、本市は 393.1 点、高知県全域は 368.2 点と高知県全域を 24.9 点上回っている状況である。

しかし、以下の質問項目において校務 DX が進んでいない状況が認められるため、学校と連携しながら改善を図る必要がある。

（１） 更なるクラウド環境の効果的な活用

本市は、すべての児童生徒と教員に Google Workspace for Education を利用できるようアカウント（個人メールアドレス）を付与しており、クラウドサービスを活用できる環境を構築している。

自己点検結果では、「学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか。」「保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。」「児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか。」「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか。」「授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。」「長期休業期間（夏休み等）の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。」について課題が認められる。

（２） FAX でのやり取り・押印の見直し

自己点検結果では、全ての学校で FAX が使用されている。教育関係機関以外の事業者や各種団体等を除く場合には、電子メールやクラウドサービスの活用を推進していく。また多くの学校では、保護者・外部とのやりとりで押印・署名を必要としている書類があると回答していることから、積極的に慣例や慣習を見直す姿勢に立ち、押印・署名の廃止とともに、順次クラウドサービス等への移行を推進していく。

（３） 各種資料等のペーパーレス化

本市が主催する教職員対象の研修会の一部は、紙媒体での資料の配付を行っているが、

今後は電子メールやクラウド環境を活用し、事前に電子媒体で配付・共有するなどして、ペーパーレス化を強く推進する。合わせて、学校と保護者とのやり取りも同様に電子メールやクラウド環境を活用した方法に順次移行していくようにする。